

親鸞聖人と専修寺

Shinshu Takadahanzan Senjuji

親鸞聖人は関東各地を御教化中の嘉禄元年(一二二五)栃木県真岡市高田の地に一字を建立し、専修念仏の道場とされました。御本尊は、夢のお告げによって長野県の善光寺へ行き、善光寺本尊の分身像をもらい受けたと伝えられる一光三尊佛であります。

親鸞聖人は、その後京都へ帰りましたが、真佛上人、願智上人をはじめとする門弟が、ここを中心に教団を次第に発展させ、「高田門徒」と呼ばれるようになりました。また、「専修念仏」―専ら念仏を修する―との意味から、寺号を「専修寺」と称することになりました。

津市一身田の専修寺は、東海、北陸方面に教化を広められた第十世真慧上人が、伊勢地方の中心寺院として建てられたのですが、栃木県の専修寺が兵火によって焼失したため、一身田が本山となりました。

これに伴って、国宝の三帖和讃をはじめ自筆消息など親鸞聖人の御真筆類も一身田の専修寺に移され、今も大切に伝持されています。このことは、本山専修寺が、真宗の正当を示すものとして、教団の誇りとなっています。



一光三尊佛の由来

一光三尊佛というのは、一つの光背に中尊として阿弥陀如来像が、その脇侍仏として向かって右に観音菩薩像と左に勢至菩薩像がお立ちなので一光三尊佛と申し上げます。

聖人は毎日この尊像を礼拝され、念仏弘法に精進されました。今日においては、聖人直拝の御本尊は、この一光三尊佛のみであります。

平常は本寺専修寺に秘仏として安置されているため礼拝できません。

平成二十六年四月、この尊像を津市一身田の本山専修寺にお迎えし、十七年に一度の御開扉が行われます。

御開扉期間中、間近に御参拝いただくことができます。



一光三尊佛御開扉

◇期間 平成26年4月3日～11日
◇場所 三重県津市一身田町

真宗高田派本山専修寺

- ・慶讃法会 4月3日～5日
- ・千部法会 4月6日～11日
- ・十万人講法会 4月9日～10日
- ・戦没者追弔法会 4月11日

